

## 「たくさんの支えに『気付く』1年生」

第1学年主任

5月の宿泊学習の事後学習として作成した班新聞に、自然の家の所員の方やバスの運転手の細やかな心遣いについて感謝を記す班がありました。たくさんの方の支えに気付く子供たちが増えてきました。

7月3日に、となみブランドの「雪たまねぎ」生産者の皆様をお招きして、各学級で会食会を実施しました。事前に生産者のみなさんに質問したいことを考え臨みました。雪たまねぎの味や栽培方法に関することだけではなく、生産する上で気を付けられていることやどのような思いを込めて栽培されているかなど、働く方々の苦労ややりがいについて目を向ける生徒が多く見られました。

今後も、いろいろな方の生き方から学ぶ機会を通して、多くのことに「気付く」学習をしていきます。



雪たまねぎの生産者から直接お話を聞いています

## 「本物」の体験を

第2学年主任

今年度の砺波市「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」は、コロナ禍前のように、5日間実施を予定しています。9月の「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」の前に、もっと働く方々の姿を見たい、お話を聞いてみたいという生徒の思いを大切に、学級ごとに企業見学に行きました。



説明を聞きながら職人の作業を熱心に見る生徒

伝統を継承しながらも常に新しさを見出してものづくりに取り組まれる姿勢や、再生エネルギーやICTを活かしての新しい農業のあり方等を教えていただきました。

「本物」の職場で、実際に働いていらっしやる姿から、働くということの喜びや、成功までの道のりにある苦労を学びました。生徒は自分自身の将来の姿をイメージし、自分のどのような部分を伸ばしていきたいかを考えることができました。

## ボーダレスに取り組む

第3学年主任

今年度の第3学年の総合的な学習の時間では、人口減少と空き家の増加、農家のなり手不足とフードロス等、身の回りにある課題を見だし、「未来を生きる」ために自分たちはどんなことができるのかを追究しています。県内を訪れる外国人観光客が減少している理由を調査している学級では、海外と出町中学校をオンラインでつなぎ、直接現地の方に英語でインタビューし調査しました。

1学期は、修学旅行、生徒活動研修会、地域の清掃ボランティア等、校外で活動する機会が多くありました。3年生として後輩をリードすることはもちろん、校外においても社会の一員としての自覚をもち、主体的に行動できるように、2学期も本気で、根気よく、元気に挑戦を続けていきます。



フィンランドにすむ現地の方とオンライン交流